

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 6

H28. 8.16



今月のキーワード

学級担任の役割

指導につながる評価

7月下旬～8月上旬にかけて、市内全小学校にて英語学校訪問研修を実施することができました。先生方のお陰で、大変有意義な研修になりました。ありがとうございました。研修では、ALTによる海外旅行出国までの英会話レッスン、英語教育推進リーダー研修のビデオ視聴、小学校外国語活動6年目を迎えた各学校における成果や今後の課題を確認することができました。成果として「児童が外国語活動に楽しく取り組んでいる」という意見が多く挙げられたものの、「高学年になるにつれて広がる学習意欲の差」「T1として授業をすることへの不安」「今後の教科化へ向けた評価への不安」など、考えていかねばならない課題がたくさんあることを、改めて私自身も痛感したところです。今後更に先生方のニーズに合わせた研修を充実させていきたいと考えておりますので、引き続き御協力をお願いいたします。

学級担任ならではの指導の工夫

8月2日、壬生町にて小教研外国語活動部会が開催されました。多くの先生方の御参加ありがとうございました。講話の中で取り上げたQ&Aを一つ紹介します。

Q 「5つの動物のカードを見て単語を覚えた人から、手を挙げて言う」というゲームをします。記憶力のある児童や、既に単語の知識のある児童のみが挙手をし、ゲームに勝つという場面は、意外とよく見られます。このようなパターンの活動に偏ってしまうと、児童の学習意欲の差を生みかねません。誰もが活動意欲をもちながら参加できる活動にするには、学級担任として、どのような工夫をしますか。

このような質問を投げかけたところ、先生方からたくさんのアイデアをいただきました・・・



- A
- ① グループ対抗で行う。1番目は〇〇さんが覚える、2番目は△△さん・・・というように、役割分担するなど、グループで作戦を立てさせる。
 - ② What's missing?という活動にする。5枚のうち1枚を裏返しにして、どの絵が裏返しになっているかを当てる。グループ活動にすれば、交代で全員が出題者になることができる。
 - ③ カードの枚数を減らす。3枚のカードを黒板に貼り、全て裏返しにして、シャッフルする。左から順番に言い当てる。②と同様、グループでも活動できる。



記憶力のある子どもだけが勝つ！というゲームをひと工夫してみてもいいでしょうか。
そのアイデアを生み出せるのは学級担任の先生です！



評価について考えてみませんか

夏休みも残り2週間です。9月からの授業が始まると、評価について考えたり、文献を読んだりする時間がなかなか取りづらくなると思います。是非、評価について再確認し、9月からの授業に役立ててほしいと思います。

例えば「コミュニケーションに関する関心・意欲・態度」の評価について、下記のように基準を設定したとします。

「コミュニケーション活動に、取り組もうとしていない」 → C（おおむね満足できる状況に達していない状況）
「アイコンタクトをしながら、相手に伝わるよう十分な声で」 → B（おおむね満足できる状況）
「表情やジェスチャーも付けて、自分の意図を伝えようとしている」 → A（十分満足できる状況）

この評価基準は「基準を明確にすることで活動中の児童生徒の姿を見て正しく評価する」（評価のための評価）ために必要ですが、授業中の指導に生かす評価としての活用も併せて考えてほしいと思います。

例えば、活動前に基準を児童生徒に伝える（例：スピーチ活動：望ましいパフォーマンスを最初に紹介する）ことで、児童生徒自身が気を付けるべきポイントを確認ことができ、頑張ろう！という意欲が喚起できます。またコミュニケーション活動の途中でも、一旦活動を中断し、上手に活動できているペアを紹介し、クラス全体に広げることも可能です。（指導につながる評価）

このような「指導につながる評価」と「評価のための評価」を意識することで、授業中PDCAサイクルが回り、授業改善につながるのではないのでしょうか。

確認事項 評価基準（判断基準）：実現状況を判断するための指標。
評価規準：ある学習に到達することが期待される達成目標。



児童生徒を褒める際にも、教師の意図をしっかりとって賞賛することが大切です。上記例の場合は、話す技能よりも「コミュニケーションをしている姿が望ましい児童生徒」を賞賛することが、正しい評価と、児童生徒への意欲付けにつながります。（指導と評価の一体化）

***** ☕ 夏休み各種研修会の様子 ☕ *****

